

校報かめのこ

福生六小ホームページ <https://fussa-6e.hs.fussa.school/>

か	考える子
め	めげない子
の	伸びる子
こ	心豊かな子



1ヶ月に13.8冊



福生市立福生第六小学校

校長 富永 大優

11月1日から15日まで、読書旬間がありました。この期間は、いつにも増して子ども達が本に接していました。朝、手提げ袋の中のたくさんの本を見せてくれた子もいました。今回の読書旬間では、教員による本の読み聞かせのほかに、図書委員会が「読書郵便」というイベントをしてくれました。これは、紹介したい本と相手を決めて、往復はがきに紹介したい思いを書いて送ると、相手が返信してくれるというものです。はがきの受け取りや配達を図書委員会の子も達が一生涯懸命取り組みました。自分では普段選ぶことのない本に接するよい機会になったと思います。

全国学校図書館協議会の2024年の調査には、子どもの読書について以下のような結果がありました。

2024年5月の1か月間に読んだ本の平均冊数

小学生 13.8冊(2014年から2.4冊増) ※対象は4年生~6年生

中学生 4.1冊(2014年から0.2冊増)

10年前と比べると、小学生は冊数が大きく増えています。一方で同じ期間に読んだ本が0冊の子が、小学生は8.5%いました。10年前は3.8%でしたので、倍以上増えています。本を読む子と読まない子の開きが出てきているのかもしれませんが。想像を広げたり、新しいことを学んだりすることができる読書を、子ども達にはぜひして欲しいと思っています。

さて、私は今年のはじまりに際して、本を読むことを目標にしていました。できれば月に2冊は読みたいと思っていましたが、なかなか読むことができませんでした。16歳以上を対象とした文化庁の「国語に関する世論調査」では、1か月に「1,2冊」読む人が27.6%、「3,4冊」が6.0%、「5,6冊」が1.5%、「7冊以上」が1.8%でした。月に3冊以上読む人は、10%弱ということになります。そして、「読まない」と回答した人は、62.6%でした。理由としては、「情報機器(スマホ、パソコンなど)で時間が取られる」「仕事や勉強が忙しい」などが上位でした。私自身がまさにこの理由に当てはまるので、もう少し本が読めるよう時間の使い方を工夫しようと思っています。この読書旬間は、子ども達の読書を通して、自分自身の読書生活を振り返るよいきっかけとなりました。1か月に3冊以上を読めば、上位10%以内に入るので、本をよく読んでいると胸を張って言えそうです。この冬は、みなさんもぜひ本を手にとって、子どもと一緒に読書をするのはいかがでしょうか。